

平成 2 1 年度  
事 業 報 告 書



## <目 次>

1	学校法人の概要	
(1)	建学の精神・教育目標	1
(2)	学校法人の沿革	1 ~ 3
	法人設立年月日	
	学校設置年月日	
	学園の沿革	
	学園の組織表	
(3)	設置する学校・施設の位置	3
(4)	学校・学科の学生数の状況	3 ~ 4
	入学定員・収容定員・現員数	
	ア ヤマザキ動物看護短期大学	
	イ ヤマザキ動物専門学校	
	平成21年度中の入試状況(平成22年度入試)	
	ア ヤマザキ学園大学	
	イ ヤマザキ動物専門学校	
(5)	役員(理事・監事)の概要	4
	理事長・学長・校長の異動	
	理事の異動	
	監事の異動	
	定員数・現員数・氏名等	
	ア 理事	
	イ 監事	
(6)	評議員の概要	5
	定員数・現員数等	
(7)	教職員の概要	5
	学校別専任・兼務教職員数	
(8)	教職員男女比率	5
2	事業の概要	
(1)	当該年度の臨時的事業の概要	5 ~ 6
	寄附行為変更・大学設置認可申請 進捗状況	
(2)	経常的事業の概要	6 ~ 8
	ヤマザキ動物看護短期大学	
	ア 教育研究	
	イ 学生支援	

ウ	国際交流	
エ	社会貢献・地域連携活動	
	ヤマザキ動物専門学校	
ア	教育活動	
イ	学生支援	
ウ	社会貢献・地域連携活動	
エ	学生募集	
	事務組織の改変	
	規程の見直し	
	施設設備等の状況	
3	財務の概要と経年変化	
(1)	決算の概要	8 ~ 9
	収支計算書の概要	
ア	資金収支計算書	
イ	消費収支計算書	
	貸借対照表の概要	
(2)	財務状況の推移(経年比較)	10 ~ 14
	収支計算書	
ア	資金収支計算書	
イ	消費収支計算書	
	貸借対照表	
(3)	主な財務比率比較	15
(4)	借入金の状況	15

## 1 学校法人の概要

### (1) 建学の精神・教育目標

昭和42年(1967年)の創立以来、創始者山崎良寿が掲げた、「命を生きる」という言葉をヤマザキ学園の建学の精神としています。その中に、「生命への尊敬の心を持つ」「動物愛護をとおして自分と社会を見つめる」「礼節や思いやりを大切にする」以上の3つの理念が含まれています。生きとし生けるものがともに尊重し、助け合い、それぞれの生命を輝かせて生きるという動物への深い愛情、人と動物の懸け橋になる人材育成を目標としています。動物愛護の精神に基づき、動物を心から理解し愛する卒業生が、社会で優れた指導者となり、平和で楽しい世の中を築いていくことを理想としています。

また、本学は人間とコンパニオンアニマルの関係における新しい学術分野を確立し、理想的な教育と研究の場を提供することを目標としています。

### (2) 学校法人の沿革

学校法人ヤマザキ学園は、我が国で初めて、動物に関する学問を研究し動物の看護や飼育の正しい技術を教育するための機関として、昭和42年(1967年)に歩みをはじめました。平成6年(1994年)にはアニマル・ヘルス・テクニシャン(A TH)の専門性が、広く社会に認められ、国内では唯一の動物管理学科を設けた3年制専修学校として認可されました。平成16年(2004年)4月、創始者山崎良寿の夢を実現させ、「生命を生きる」という教育理念を継承して、新たに「ヤマザキ動物看護短期大学」が開学しました。平成21年(2009年3月)、より高度な専門知識を持つ人材の育成を目指し四年制大学の設置認可申請書を文部科学省に提出し、準備を進めてまいりましたが、平成21年10月、文部科学大臣より「ヤマザキ学園大学」設置の認可を受けました。

法人設立年月日

法人の名称 学校法人ヤマザキ学園

法人設立の年月日 平成6年6月27日

学校設置年月日

ヤマザキ動物看護短期大学 平成16年度開設

動物看護学科

ヤマザキ動物専門学校 平成7年度開設

## 学園の沿革

- 昭和42年12月 創始者山崎良寿、渋谷区神泉町に世界発のイヌのスペシャリスト養成機関を創立
- 平成2年10月 創始者山崎良寿初代学長死去
- 平成3年2月 山崎薫第2代学長就任
- 平成6年6月 東京都知事認可により学校法人ヤマザキ学園設立  
専修学校日本動物学院設置、山崎薫理事長就任
- 平成8年10月 創立30周年を機に、専門学校実習専用の神泉校舎新設
- 平成12年3月 渋谷区松濤に7階建専門学校本校舎新設
- 平成12年4月 専修学校日本動物学院を専門学校日本動物学院に校名変更
- 平成12年4月 専門学校日本動物学院の入学定員を320人、収容定員を960人に増
- 平成12年9月 群馬県富岡市にドッグトレーニング研修施設「グリーンフィールドズ」を設置
- 平成12年10月 渋谷区松濤にドッグトレーニング研修施設「レインボーフィールドズ」を設置
- 平成12年10月 富ヶ谷校舎に「日本動物図書館」を開設
- 平成15年11月 文部科学大臣より、短期大学設置のため学校法人ヤマザキ学園寄附行為変更認可
- 平成15年11月 文部科学大臣より、ヤマザキ動物看護短期大学設置認可
- 平成16年4月 ヤマザキ動物看護短期大学開学  
動物看護学科（3年制入学定員100人）を設置
- 平成16年4月 専門学校日本動物学院をヤマザキ動物専門学校に校名変更
- 平成17年4月 渋谷区松濤に全天候ドッグトレーニング研修施設「レインボーホール」を設置
- 平成19年3月 ヤマザキ動物看護短期大学第1回卒業式
- 平成19年4月 ヤマザキ動物看護短期大学専攻科開設
- 平成19年4月 ヤマザキ動物看護短期大学の入学定員を116名、収容定員を348名に定員増
- 平成21年3月 ヤマザキ学園大学設置のための認可申請書を文部科学大臣に提出  
ヤマザキ動物専門学校動物管理学科入学定員を変更（160名）、動物看護学科（2年制、入学定員40名）を新設。
- 平成21年10月 文部科学大臣よりヤマザキ学園大学設置認可
- 平成22年3月 南大沢2号館完成

学園の組織表（平成21年5月現在）

別紙参照

（3）設置する学校・施設の位置

法人所在地	東京都渋谷区松濤2丁目3番10号
ヤマザキ動物看護短期大学	東京都八王子市南大沢4丁目7番2号
ヤマザキ動物専門学校	東京都渋谷区松濤2丁目16番5号
松涛校舎	東京都渋谷区松濤2丁目3番10号
富ヶ谷校舎	東京都渋谷区富ヶ谷2丁目25番1号
神泉校舎	東京都渋谷区神泉町10丁目3番

（4）学校・学科の学生数の状況

入学定員・収容定員・現員数（平成21年5月1日現在）

ア ヤマザキ動物看護短期大学 (人)

学 科	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物看護学科	116	348	130	411
専攻科動物看護学専攻	20	20	16	16
計	136	368	146	427

イ ヤマザキ動物看護専門学校 (人)

学 校 名	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物管理学科	160	840	135	506
動物看護学科	40	80	5	5
計	200	920	140	511

平成21年度中の学生・生徒の入試状況（平成22年度入試）

ア ヤマザキ学園大学 (人)

学部・学科名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
動物看護学部	180	243	240	230	182
動物看護学科					

イ ヤマザキ動物専門学校 (人)

学科名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
動物看護・美容学科	120	124	124	124	107
動物看護学科	40	28	28	28	27
動物美容学科	40	15	15	15	13
計	200	167	167	167	147

(5) 役員(理事・監事)の概要

理事長・学長・校長等の異動

ヤマザキ学園大学長に中村經紀氏が就任。

(平成21年10月30日付け)

理事の異動

異動なし。

監事の異動

異動なし。

定員数・現員数・氏名等(平成21年4月1現在)

ア 理事

選任区分	区分	氏名	定員	現員	常勤・ 非常勤別	摘要
寄附行為 第6条第1項第1号 (学長・校長)	学長 校長	山崎 薫 山北宣久	2人	2人	常勤 常勤	平成6年6月27日就任 平成11年9月11日就任
寄附行為 第6条第1項第2号 (評議員のうちから 評議員会が選任)	理事 理事	村松寿満子 堀江昭雄	2人	2人	非常勤 非常勤	平成18年6月27日就任 平成20年4月1日就任
寄附行為 第6条第1項第3号 (理事会が選任)	理事 理事 理事 理事	山崎 緑 吉見充徳 古谷久子 中村經紀 齊藤公紀	5人	5人	常勤 非常勤 非常勤 非常勤 非常勤	平成6年6月27日就任 平成6年6月27日就任 平成6年6月27日就任 平成11年9月11日就任 平成15年11月27日就任
合計			9人	9人		

イ 監事

選任区分	区分	氏名	定員	現員	常勤・ 非常勤別	摘要
寄附行為 第7条 (理事会が選出した候 補者から理事長選任)	監事 監事	大坪俊勝 玉木祥夫	2人	2人	非常勤 非常勤	平成18年7月1日就任 平成20年4月1日就任

(6) 評議員の概要

定員数・現員数等(平成21年4月1現在)

選任区分	定員	現員
寄附行為第23条第1項第1号 (法人の教職員)	1人	1名
寄附行為第23条第1項第2号 (卒業生)	9人	9名
寄附行為第22条第1項第3号 (理事会において選任した者)	9人	9名
合計	19人	19人

(7) 教職員の概要

学校別専任・兼務教職員数(平成21年4月1日現在) (人)

区分	専任教員	兼務教員	職員	派遣員等	合計
ヤマザキ動物看護短期 大学 動物看護学科	28(教育助 手含む)	20	18	1	67
ヤマザキ動物看護短期 大学 専攻科 (動物看護学専攻)	0	1	0	0	1
ヤマザキ動物看護専門 学校	39	48	13	0	100
法人本部	0	0	30	0	30
計	67	69	61	1	198

(8) 教職員男女比率

区分	男性	女性	合計
専任教職員	28	100	128
非常勤教員	31	39	70
合計	59	139	198
比率	30%	70%	100%

2. 事業の概要

(1) 当該年度の臨時的事業の概要

寄附行為変更・大学設置認可申請

昭和42年にイヌのスペシャリスト養成施設として創立された本学園は、幾多の変遷を経ながらも実学をとおして学生の人間形成を達成するために努力してきました。しかし、本学園が短期大学を開校してから6年が過ぎましたが、少子化現象はとどまるところを知らず、私立短期大学の過半数が定員割れとなるなど短期大学の経営環境は厳し



い状況となっております。こうした状況に加え、国際化、高度産業化・情報化の波のなかで教育環境は急速に変化しており、教育機関は改革に迫られ、多様な社会の要望に応える人材の育成が求められています。「中央教育審議会」等の答申にもありますように、教育の再生、人間性回復のための改革ないし新たな施策は、高等教育機関が対応すべき社会的責務となっております。本学園も時代のこの要請を真摯に受けとめ、より高度な専門知識をもつ人材の育成と財政基盤の安定を図るために、建学の精神の下に40年の伝統と英知をもって挑戦することとし、平成22年度に現行のヤマザキ動物看護短期大学を発展的に解消して、4年制大学を発足させることとしました。こうした状況をふまえて以下に示す諸事業を展開しました。

### 進捗状況

動物看護の分野における高度な知識・技術を修得するとともに他の専門職と連携する能力を身につけ、指導的役割を果たすことができる人材を育成することを目的として、動物看護学部動物看護学科の大学を設置することとし、文部科学省に設置認可申請書及び寄附行為変更認可申請書を提出しました。その結果、平成21年10月30日本学園発足以来の念願であったヤマザキ学園大学が文部科学大臣から設置認可を受けました。

### (2) 経常的事業の概要

#### ヤマザキ動物看護短期大学

##### ア 教育研究

本学の特徴として卒業までの実習科目の取得単位が多いことが挙げられます。これは動物看護の職業人として、卒業後すぐ動物関連の職場で活躍できるように、1年次から実習科目の履修が組まれているからです。実習科目については、今年度も複数の助手によりサポートを行いました。また、教育研究の分野では、紀要「ヤマザキ動物看護短期大学雑誌 第2号」により公開されておりますのでご参照ください。

##### イ 学生支援

本学は独自の制度として学年主任、クラスアドバイザー、アシスタントアドバイザー制を導入しています。学生達の悩みや問題に対して、専門カウンセラーが対応するほか、アドバイザーたちは、学生生活全般に涉って助言・指導を行います。特に学生達と年齢の近いアシスタントアドバイザーは、1人暮らしの学生達が気軽に相談できるようになっております。

短期大学の就職活動には、創立以来40周年にわたる専門学校の全国におよぶ就職ネットワークを最大限に活用しています。就職支援課は、学生が社会人として自立できる職業に従事するために相談に応

じています。各学年において「就職セミナー」を開催しており、学生1人ひとりの希望に応じた指導を、キャリアを積まれた先生が個人指導にあたっております。今年度は、就職希望者に対して96%の就職率となっております。

#### ウ 国際交流

通常授業のほかに郊外授業の充実に力をいれています。その一環として海外研修があります。1971年以来、専門学校と共同でアメリカ、オーストラリアなど10日間の研修を行っています。豊富な関連提携先を持つ本校の研修では、セミナーの受講や盲導犬協会の施設見学・関連大学等国際的な検分をひろげております。しかし、今年度においてはインフルエンザの世界的な流行もあり海外研修は中止致しました。

#### エ 社会貢献・地域連携活動

八王子学園都市大学いちよう塾に参加しています。これは、「だれもがいつでも多様に学び豊かな文化を育むまち」を実現するため、八王子市と八王子地域23大学・短期大学・高等専門学校、企業及び市民の方との協働により、市民が意欲をもって学ぶことができる機会の場の提供を目的として2004年9月に設立された、市民のための市民大学です。今年度は公開講座として、「動物医療の実態-知っているようで知らない動物医療について」の講演を本学准教授である谷口明子先生が行いました。

また、2月に開催された「第60回全関東八王子夢街道駅伝競走大会」に本学駅伝チームが大学男子の部に参加し、無事完走を果たし健闘致しました。

#### ヤマザキ動物専門学校

#### ア 教育研究

校内で行われている授業のほかに、社会の一線で活躍している文化人や専門家によるセミナー授業、獣医大学や動物園でのエクスターン授業、文化祭やスポーツデーなどの学校行事をとおして、実際の現場での即戦力として活躍できる「総合力」を育成しております。

#### イ 学生支援

本学では、就職内定までのプロセスとして、1年生から就職活動に備えたカリキュラムを準備しています。また、インターン研修では併設の動物病院とグルーミングサロンを実際に体験し、3年生では実社会における研修を実施しています。その結果本年度は、就職希望者の内96パーセントの高い就職率を実現しました。さらに就職支援活動の一環として、学生が相談・指導を受けやすいように就職支援室を、松涛校舎9階から本校舎1階へ移動し学生の利用しやすさを改善しました。

## ウ 社会貢献・地域連携活動

動物看護の地位向上や動物福祉活動の一環として松涛校舎において、捨てられたり迷子になったイヌやネコに対して新しい飼い主を探す「ペットハッピーホームプログラム」に参加しております。また、ボランティアクラブによる「世田谷区動物フェスティバル」など地域社会の取り組みに積極的に参加しました。

## エ 学生募集

平成22年度生の応募状況を前年度と比較すると増加しております。本校をもっと知っていただくために、年間を通して様々なイベントを開催したことなどのほか、四年制大学への進学志向のなかで本学園の新設大学と歩調を合わせた学生募集が本校のイメージアップとして入学者の回復に繋がったと思われます。

また、多様な入試枠の一環として「社会人入試」があります。平成20年度入試で応募者が0名でしたが、平成21年度では10名を超える出願がありました。今後も一般の社会人だけではなく大学生も取り込こんでいく必要があると思われます。

### 事務組織の改編

平成20年2月に設置した「中長期計画策定委員会」を「大学設置準備委員会」に切り替え、設置の作業を進めてまいりましたが、四年制大学の設置認可を受けたことによりこれを発展的に解消し、「大学開学準備委員会」を発足して開学の準備作業に取り組みました。また、事務組織の効率化を目指して事務組織の改編を行いました。

### 規程の見直し

教育目標達成へ向け、改組の一環として、就業規則等各規程の実務的な検討と見直しを行いました。

### 施設設備等の状況

南大沢キャンパスに2号館が完成しました。平成22年4月開学の大学施設として、動物臨床看護学実習室、動物臨床検査学実習室のほか、セントヨハネホール(階段教室)や実習室(ドックカフェ)、食堂(スカイダイニング)も完備しており、平成23年度から理想的な教育と研究の場として本格的に稼働いたします。

## 3 財務の概要と経年変化

### (1) 決算の概要

#### 収支計算書の概要

#### ア 資金収支計算書

平成21年度の資金収支計算書は、資金収入の合計が前年度繰越金23億2千万円を含め46億5千万円(前年度比10億円の増)とな

り、資金支出の合計が24億円(前年度比10億1千万円の増)で、次年度繰越支払資金が22億4千万円となりました。今年度は四年制大学設置に関連し、南大沢2号館が完成したことにもない、新築工事費11億4千万円、機器備品費1億円、図書費3千万円の支出がありました。

#### イ 消費収支計算書

平成21年度の消費収支計算書は、帰属収入の合計が14億5千万円(前年度比5億3千万円の減)となり、基本金を2億8千万円組み入れたことにより消費収入は11億7千万円となりました。消費支出は合計が13億5千万円(前年度比5百万円の増)で、平成21度は1億8千万円(前年度比7億7千万円の増)の消費支出の超過となりました。この消費支出の超過は、学生生徒納付金の減少と大学関連資産における基本金組入額の増加によります。

#### 貸借対照表の概要

平成21年度の貸借対照表は、資産総額が112億6千万円となりました。前年度と比較すると2億円増加しています。一方負債総額は、9億5千万円で、前年度より1億円増加しています。なお、第2号基本金に相当する9億円を第1号基本金へ振り替えています。

## ( 2 ) 財務状況の推移 ( 経年比較 )

## 収支計算書

## ア 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部	17年度	18年度	19年度	20年度	本年度
学生生徒等納付金収入	2,011,046	2,151,873	1,963,893	1,746,492	1,397,603
手数料収入	22,380	18,320	13,417	10,233	11,627
寄付金収入	12,900	0	3,610	2,480	1,770
補助金収入	0	0	0	27,168	28,466
資産運用収入	14	944	4,212	11,595	9,655
資産売却収入	0	0	501,422	600,000	0
事業収入	0	0	0	0	0
雑収入	4,952	4,978	1,281	607	1,413
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,220,881	1,092,715	970,615	754,586	730,075
その他の収入	40	24,433	101,868	869	901,038
資金収入調整勘定	1,140,786	1,220,881	1,093,235	970,615	755,946
前年度繰越支払資金	1,948,715	2,113,273	1,625,591	1,457,335	2,324,466
収入の部合計	4,080,142	4,185,655	4,092,674	3,640,750	4,650,168

支出の部	17年度	18年度	19年度	20年度	本年度
人件費支出	569,606	549,153	624,694	610,342	620,390
教育研究経費支出	287,666	245,417	306,264	232,765	270,430
管理経費支出	324,181	360,817	381,326	327,112	320,128
借入金等利息支出	5,362	3,976	3,307	1,149	0
借入金等返済支出	364,200	54,000	54,000	112,600	0
施設関係支出	395,742	682,071	754,675	19,012	1,158,607
設備関係支出	24,259	158,506	10,474	8,924	159,370
資産運用支出	0	500,000	500,000	0	0
その他の支出	33,838	59,258	50,186	50,292	50,628
資金支出調整勘定	37,985	53,134	49,587	45,912	173,572
次年度繰越支払資金	2,113,273	1,625,591	1,457,335	2,324,466	2,244,186
支出の部合計	4,080,142	4,185,655	4,092,674	3,640,750	4,650,168

イ 消費収支計算書

(単位:千円)

収入の部	17年度	18年度	19年度	20年度	本年度
学生生徒等納付金	2,011,046	2,151,873	1,963,893	1,746,492	1,397,603
手数料	22,380	18,320	13,417	10,233	11,627
寄付金	12,900	0	3,610	10,884	1,770
補助金収入	0	0	0	27,168	28,466
資産運用収入	14	944	4,212	11,595	9,655
資産売却差額	0	0	242,916	170,943	0
事業収入	0	0	0	0	0
雑収入	4,952	5,062	1,281	607	1,414
帰属収入合計	2,051,292	2,176,199	2,229,329	1,977,922	1,450,535
基本金組入額合計	677,877	1,394,996	1,151,592	34,336	282,327
消費収入の部合計	1,373,415	781,203	1,077,737	1,943,586	1,168,208

支出の部	17年度	18年度	19年度	20年度	本年度
人件費	569,023	552,829	622,304	615,561	625,629
教育研究経費	399,196	377,218	464,954	390,133	389,079
管理経費	334,158	370,047	392,768	337,387	331,219
借入金等利息	5,362	3,976	3,307	1,149	0
資産処分差額	95,315	0	0	2,620	4,016
徴収不能引当金繰入額	0	0	20,325	0	1,360
消費支出の部合計	1,403,054	1,304,070	1,503,658	1,346,850	1,351,303
当年度消費収支超過額	29,639	522,867	425,921	596,736	183,095
前年度繰越消費収支超過額	403,181	373,542	149,325	384,297	531,102
基本金取崩額	0	0	190,949	318,663	0
翌年度繰越消費収支超過額	373,542	149,325	384,297	531,102	348,007



貸借対照表

(単位:千円)

	17年度	18年度	19年度	20年度	本年度
固定資産	7,368,548	8,569,259	9,287,052	8,722,974	9,009,630
流動資産	2,119,266	1,628,933	1,458,690	2,325,801	2,246,907
資産の部合計	9,487,814	10,198,192	10,745,742	11,048,775	11,256,537
固定負債	181,023	130,662	74,273	20,892	26,131
流動負債	1,329,412	1,218,022	1,096,290	821,633	924,924
負債の部合計	1,510,435	1,348,684	1,170,563	842,525	951,055
基本金の部合計	7,603,837	8,998,833	9,959,476	9,675,148	9,957,475
消費収支差額の部合計	373,542	149,325	384,297	531,102	348,007
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	9,487,814	10,198,192	10,745,742	11,048,775	11,256,537

(3) 主な財務比率比較

(単位:%)

比率名	算式	17年度	18年度	19年度	20年度	本年度
帰属収支 差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	31.6	40.1	32.6	31.9	6.84
消費収支 比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	102.2	166.9	139.5	68.1	115.7
学生生徒等 納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	98.0	98.9	88.1	88.3	96.4
人件費比 率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	27.7	25.4	27.9	31.1	43.1
教育研究 経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	19.5	17.3	20.9	19.7	26.8
管理経費 比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	16.3	17.0	17.6	17.1	22.8
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	159.4	158.4	133.1	283.1	242.9
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}} \quad 1$	18.9	15.2	12.2	8.3	9.2
自己資金 構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}} \quad 2$	84.1	86.8	89.1	92.4	91.6
基本金比 率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.2	98.2	90.8	100.0	98.8

1 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額

2 総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額

(4) 借入金の状況

平成21年度は該当事項ありません。

(別表)

### ヤマザキ学園事務組織図

